

H.28(2016年) 二月(今月の掲示板)

真宗大谷派・願成寺

自己中心の私に気づき、頭が下がるのが『南無』

私達は学校へ通い、知恵を授かりました。知恵には『人知』『人間の知恵』と、『仏智』『仮の智慧』の2つがあります。人知は自己中心であり・自分の外を見(外観)、私は善人・相手が悪いと眞実を見ようとせず、人知で行き詰まつた時に苦悩します。『自己中心は我が儘で・眞実(道理)に背いているぞ。自分を厳しく見直し・自分の間違いに気づけ(内觀)』の御叱りの呼びかけが仏智で、私には厳しく痛いものです。仏教が流行らないのは、『自分の思い通りにしたい』との人間の本能的な急所・痛い所を突かれ、嫌な思いをするからです。

『南無』は、インドの言葉で『貴方を信じます』の意味です。南無は中国語で『帰命』『素直に従う』と訳され、南無阿弥陀仏と帰命無量寿如来は、『何事も自然の成り行き(眞実)に従います』の意味です。仏様の本願(法)『眞実』の呼びかけを聞信(聞き信じる)し・念佛により助かって行くのだと親鸞聖人は説かれました。

◎主な参考資料

- (1) 龜井鉱(講演筆録)「人間の根っからな思い違い」、在家仏教協会・2015年12月号、p.12~27。
- (2) 澤田秀丸(著)『念佛とは』、月刊・花すみれ・2016年1月号、p.22~25、東本願寺出版部。
- (3) 池田勇諦(著)『聞法とは(1)』、月刊・同朋・2014年9月号、p.25~27、東本願寺出版部。